

質疑応答	
市民	博物館の建設場所が決定したと言った人は誰か。市長か。
文化課長	市が決定した。
市民	ということは市長で良いか。
文化課長	市の組織の中でそのようなことを決定する会議があり、そこで決定した。
市民	決定する会議とは。
文化課長	政策会議という会議。
市民	その長は誰か？
文化課長	市長。
市民	だから市長が決定したということだろう。
文化課長	市長一人ではなく、その会議の中で意見を出し合う中で最終的に決まっていく。
市民	市の最高責任者は市長だ。 なぜ説明会に賛成議員を呼ばないのか。議員の8割くらいが賛成しているのなら言わないが、賛成と反対の議員が真半分に分かれている。今の建設予算額が30億円でも、来年再来年には45億円になる可能性もある中、賛成した議員はなぜ賛成したのか。賛成議員の理由が聞きたい。 策定委員会の議事録を読んだところ、策定委員の中に、土地の決定が先ではなく、どういうものを作るか、予算はいくらか、ということを先にやると言っていた委員がいたが、見識の高い人がいて嬉しかった。冷静な目で、いいものをつくるにはどうしたら良いのかという意見を出している委員がいた。 ただ、最終的には議会で決める。 博物館の建設は教育部長達が決めている訳ではない。だから賛成した議員の意見を聞きたい。
教育部長	今回は教育委員会主催の説明会。この場に市議会議員の皆様を連れてくるのは難しい。
文化課長	議会で賛成の意見が得られたが、どのような博物館になるのか基本計画を作ってみないと分からないという理由で予算に賛成していただいた議員もいる。議員がどのような考えで、賛成又は反対したのか議会だよりに出ていたと思う。
市民	市民としては議員の生の声を聞きたい。何十億円という予算を使うのだから、市民はもっとお金の事を聞きたい。 博物館を作ろうという計画があった35年前から、毎年1億円ずつ積み立てて、もう積み立てたお金があるから建設するということなら分かる。建設してはいけないとは言っているのではなく、急いでやらなくても、たとえ10年20年かかってもいいからゆっくりやればいい。市民みんなから良かったと言われるものをなぜ作らないのか。だから市長や議員に言いたい。
教育部長	急いでということではない。17ページを見ていただければ分かるが、令和3年度に基本構想を策定している。そこからすでに5年近く経つ。
市民	富士宮に来て20年なので、平成3年に博物館を建てましょうという会が作られた時、僕はまだこの町にいなかった。
教育部長	教育委員会としてはその当時からずっと作りたいという思いがあるが、時代背景で、博物館ではなく違う事業をやる必要があった。ただ、今日説明しているのは基本計画の素案についてであり、建設するというわけではない。
市民	違うのか。土地が決まったら建設するのではないのか。
文化課長	建設する方向では考えているが、予算がとおったわけではない。
市民	順番が逆。なぜ予算がないのに土地が決定するのか。

副市長	富士宮市では、昭和の終わり頃、博物館が必要ではないかという議論があったが、基本計画に書いてあるとおり、庁舎建設や清掃センター建設などがあり、中々優先順位としては上がってこれなかったというのが現実。そんな中で、平成25年頃から博物館について議論が出たが、まだ整理不足の点があったため、皆様に上手く伝わらず申し訳なかったと思っている。今回の基本計画は、富士宮市で郷土史博物館はずっと必要だと議論してきた中で、どのようにしてそれを形にできるかという計画を作らせて欲しいということで、市議会に予算をいただいたもの。その際、物価高騰やいわゆるハコモノ行政と言われることもあった。私は、平成元年に市役所の仕事を始めているが、その前の時代、1980年代頃は特に色々な施設を建てた時代で、華美な庁舎ができるなどハコモノ行政と大変批判を受けた。 だからハコモノというのが揶揄する言葉として出てしまった。その時代は、博物館よりも市民生活に必要な建物が優先順位としてたくさんあったので、実現ができなかった。 これから人口が減って施設が余ってくるかもしれないということを踏まえながら、施設の規模感、そして余った施設を活用する案も含めた形で、基本計画をつくった。 議員の中には、基本計画をつくるということは、すぐ建設するのかという議論もあったが、基本計画の姿は、富士宮市にとっての必要性、身の丈に合った施設、財政状況等も含めて、一度作らせて欲しいということで作成したもの。建設場所についても、こういう場所が良いのではということ、基本計画を作成する中である程度示しながら、まちなかで作るということに決定した。
市民	決定ということか。
副市長	もちろん、決定という言葉を使う。これは市議会の議決事項とは別に予算もあるが、この基本計画を作る上で、市長を始めとした執行機関の中で、どうやって市民の皆さんに提示をするかという話をする手続きの話になるので、これは間違っていない。 以前は白糸自然公園という話もあったが、やはり施設の大きさや目的を考えたときに、まちなかにあった方が良いということになり、策定委員から意見をいただきながら検討した。ではまちなかのどこがいいかというと、公共施設を作る場合、一番最適じゃないかという建設場所を市が決定した。
市民	マンションの裏はセンスがない。
副市長	色々御意見があると思うが、この基本計画に、場所、規模、収蔵の仕方などが書かれている。 この計画を作ってすぐ建設が始まるということではないが、いつつくのかということが気になると思う。ナフサ問題や物価高騰もある中、建設予算はまだこの後控えている。
市民	来年、再来年で予算を取らないといけないのではないかな。
副市長	はい。なので、建設の前に、建設のための基本的な設計を作らなければいけない。そして仕様書的な役割をする実施設計を作らなければならない。まだ年数は掛かる。議会には予算という形で諮っていきたいと思っている。 そのためには、富士宮市として、こういう形だったら身の丈に合ったサイズであり、地域特性も入れた使い方ができる、ということを基本計画の中で示している。まずはこれについて皆さんの理解をいただきたい。
市民	それならば、きららの駐車場に決定ではなく予定ではないか。決定ということは建てることになったのではないかな。
副市長	基本計画の中ではそうさせていただいた。
市民	予算を立てても、議会で反対されてできない可能性もある。最初から決まったという話はしないで欲しい。
副市長	博物館を建設する議論をするためには、場所をお示ししないと議論にならない。
市民	予定にすれば良い。決定というのは建てるということ。
副市長	そういう前提で、今お話をさせていただいている。
市民	場所はどこでも良いが、博物館は建てるのか。
教育部長	建設する必要があると考えている。
市民	基本計画の趣旨を聞いた中では、博物館は、あった方が良くないかなと思うが、建てるのが前提でこの説明会をやっているのか。

教育部長	教育委員会としては、きさら駐車場を候補地にして、ここに建てたいという考えがある。ただ、基本計画を策定した後、基本設計、実施設計、そして工事に移るが、その都度予算が必要になってくる。
市民	説明会では、博物館を建てる前提で説明をしているということでもいいのか。
教育部長	はい。
市民	そうすると、予定では4年後の12年を完成予定として説明をしているが、13年になったり14年になったり、社会情勢の中で建設時期が延期する可能性もある。また、建設費用は、今は26億円くらいだが、今後、30億円、45億円くらいを見越しているのか？
教育部長	博物館の規模や社会情勢から、そのくらいかかるのではないかと考えている。
市民	下がることはないのか。
教育部長	恐らくないと思われる。
市民	図面もなく、デザインもなく、何を作るかも分からないのに、30億円というのは、何を根拠にしているのか。
教育部長	ある程度の延べ床面積は想定ができています。
市民	それは甘い。中に入れる骨材の使用目的で、金額が2倍も3倍も違ってくる。柱一本でもかわってくる。
文化課長	今回のこの数字は、他市で過去につくられた博物館をもとに計算している。
市民	それは過去のこと。これは、これから作る富士宮の博物館の話。
文化課長	富士宮の博物館はまだできていないので、設計に基づく数字は出せない。
市民	細かい数字は出てこないから、概算としてこのくらいかかるということか。
教育部長	はい。市民の方に説明するにあたって、全く金額が出ないというのも、なかなか理解が得られない。
市民	去年までは30億円だった。
文化課長	基本構想の時は17～22億円だった。30億円という数字は、去年こちらからは出していない。
市民	30億円と聞いた。新聞にも出ていた。
文化課長	それは出していない。基本構想の時に参考にした博物館があるが、その博物館の一平米あたりの金額がどれくらいかったかを算出して、それを今の物価に合わせて計算した。
市民	今の予算の中ではだいたい30億円弱かかるということだが、昨今の社会情勢を色々考えると、4年でできるものが5、6年かかる。そうすると間違いなく予算は上がっていく。下がることはまずない。博物館ができた後も、電気、ガス、水道、人件費等色々な固定費は毎年かかってくる。そういったものも何千万円から数億円かかってくると思う。それも市民からの税金で払っていく。もちろんこういう施設が必要だということも分かる。でも優先順位が違うような感覚を受けている。
教育部長	優先順位で博物館の建設はどんどん先になってきた。教育の場として、図書館や公民館はあるが、博物館は富士宮市に一つもない。子供たちにしっかり学んでもらいたいという思いがある。
市民	必要性は分かる。しかし入館料が無料となっている。固定費がかかるので、間違いなくマイナスになり、市の税金から補填しないとイケない。
文化課長	単に文化財が展示されていて、一回行って終わりの施設ではなく、今まで博物館に行かなかった方も含めて、色々な方が博物館に関わって訪れることができる拠り所となるような施設にしていきたいと思っている。今までの時代にあった一般的な博物館とは少し違った、開かれた博物館にしていきたい。 日々生活していくことも大切だが、市民が博物館を利用して、物質的なことだけではなく、心の豊かさを感じることができるような、来てよかったと思えるような場所をつくることも行政としては必要だと思う。図書館に行って色々なことを学べたり公民館に行って講座を受けて仲間を作ったりするように、博物館も市民が訪れて生活を豊かにできる場所にしていきたいと思っている。
市民	言っていることは十分分かる。博物館を建てた後に黒字になるならいい。しかし赤字が見えている。
文化課長	社会教育施設なので、公民館も図書館も入館料はとっていない。市民の学びや心の豊かさを提供するために、市の税金を使っている。博物館についても同じものとして考えている。
市民	維持費などの掛かる金額が違う。

文化課長	建物の維持経費は設計してみないと分からないが、例えば富士市では、公園の中の建物と合わせて、年間3,500万円という数字が出ている。富士宮市の規模を考えるとそこまで行かないと思う。人件費についても、新たに人件費が追加されるわけではなく、今いる学芸員が場所を変えて活動するので、多少事務的な職員は増えると思うが、大きく人件費が増えるということはない。赤字と言われるとそうかもしれないが、市民のための出費として、必要な出費であり、必要な施設として整備していきたいと市は考えている。
市民	必要な出費と言っても結局は税金。 基本計画は、博物館を建てること前提でつくっているが、例えばこれをもう一度市民のところまで戻して、このような博物館を建てる構想について富士宮市の市民全員にアンケートを取って、七割八割の方が反対だと言った場合、白紙に戻る可能性はあるのか。
文化課長	アンケートをやらないのかということは、何回も色々な所で言われてきたが、説明会を開催しても市民全員が聞いているわけではないということもあり、伝わり切れないのかなということもある。
市民	今回説明会に来た人が少ないが、案内を出したか。僕は区長をやっているが、案内は来ていない。区長に来ていないということは、もちろん町内会長、班長、市民にも案内がいていない。僕はたまたま岳南朝日新聞を見て、これは区長として知っておかなければならないと思って来たが、そういったことをやらないで説明会に市民が集まらないというのはおかしい。
文化課長	市で何かやる時、市民一人ひとりに通知するということは基本的にやらないので、広報や新聞、SNS等で皆様にお知らせしている。
市民	そうだが、そのために自治会があり、アンケートを取る体制ができている。区長にこういうアンケートを取ってくださいと言えば、僕らは町内会長や班長までおろして、班長は市民からアンケートを、要するに情報を吸い上げることができる。博物館を建てる案が出ていることについて、大体の概算を示して、場所の候補を伝え、説明して、市民の意見を吸い上げることはやろうと思えばできるはずだ。
文化課長	今日は区長さんが来てくださって、説明を聞いて、必要性は分かっていたというところだが、それを区民全員に話す機会、皆さんが聞く機会を作れるかということ中々そういう機会を作るのは難しいと思う。
市民	僕らが町内会長までおろして、町内会長が班長までおろして、このような案件がありますよということはいくらでもできる。今回、博物館を建てること前提になっているが、市民の中には博物館を建てることを知らない人もいる。 しかし、このようなものを建てる前に、市民の総意を吸い取るべきじゃないのかなと思う。僕らは町内等で何かをする時には、周りの意見をもちろん聞く。お祭りをやる時もそうしている。富士宮市としては大きな案件なので、そこは必要であったと今更ながら思う。
市民	今おっしゃられた方が本当に区長として、そういう一つ一つの小さなことまでしてくれている。127区あるが、通達するなんて簡単だ。みんなそのくらいの意気込みはある。そういう努力をして、皆がよかったねと言われるものにしたらどうか。
文化課長	令和3年に基本構想を作った翌年、令和4年の時は区長さんに、総会の時にお願いして、班会談していただいた。昨年は広報等に載せたりして、皆さんに説明をしてきた。それでは足りなかったということで、昨年も皆さんに説明会を開いてきた。今回についても、広報や新聞、SNS、そういったものを使って市民の方には周知してきた。
市民	今回の北山会場では50人定員と聞いた。しかし10人しか来ない。告知が足りない。僕はもっと沢山来て欲しかった。賛成も反対もお互いに言い合えばいい。そういう努力が先で、博物館の建設ありきで物事が進んでいるからこのようになってしまう。

文化課長	作るのありきという話だが、市としては、博物館の建設はずっと課題であり、市として進めなければいけないもの。市民の方に説明会に来ていただいて、ご理解いただければ一番ありがたいが、来てくださらない方も多い中で、市としては、やはり富士宮の歴史を守っていくことは、文化財保護法などの法律があるくらい重要なことで、市の必要な仕事であると考えている。市民個々の意見を聞くということも大切だが、市民個々の意見を聞いたときに、そういった視点からの判断をしていただけないかなと思う。
市民	区長の今おっしゃっていることは個々の意見ではない。市民の皆さんにはどのような気持ちがあるか、博物館を建設することは良いのか悪いのか、せめてそのくらいのことは聞いたらどうか。40億50億の富士宮の予算が必要になるのだから、見直す方向も少しは考えたらどうか。やっちゃいけないと言っているわけではない。
文化課長	今回はパブリックコメントをやらせていただいている。そういった意見はパブリックコメントとしていただきたい。
市民	無理。パブリックコメントは誰も採用してくれない。僕は過去に何回もやった。一度として採用ということはなかった。
文化課長	意見を見た中で、必要かどうか判断して採用する。いただいた意見は、残念ながら採用にならなかったのかもしれないが、中には必要だということで採用されたものもある。
市民	マンションの裏にある博物館というのは、センスが悪い。どうせ作るならもっと違う方法があると思う。
市民	この基本計画を見ると、大変すごい資料だなと思う。私も以前区長をやっている。色々話は聞いているが、初めて説明会に来て、どんなものか分かった。毎月やっている町内会長、班長を集めた中で説明をしなければならないと考えている。今日のことはそのまま伝えるつもりでいる。その反応がどうなるかは分からない。今までの話の中では、必要ないという意見が大方だった。ということは今日説明会に来た人数も、それに付随していると思う。僕は15分前に来て、もっと人がいるだろうなと思っていたら、この関心のなさにはびっくりした。 この基本計画は、たたき台として捉えていいのか。場所がきららというのは、どうもまちのほうに様々なものが集中して点在しており、市街の人のためにしているような感じを持ってしまう。人口的な理由や観光客も来るという理由でこの場所を選んだ、既存のものがあってその駐車場を生かす、ということになったのは分かる。 しかし、県の公立高校の統廃合の話があるので、このような施設の活用を検討したらどうか。西高や東高が統廃合されるんじゃないかと聞いている。そこをなぜ活用できないのか聞きたい。そうすれば、経費の面でも削減でき、税金の助けになる。 また、ふるさと納税や寄付金の割合がどのくらいになるのか大体でいいから教えていただければありがたい。
教育部長	県立高校の統廃合について、市内の4校を2校にすると発表しているが、どこの学校かは皆さんが想像しているだけで発表されていない。そして県の施設なので、そこを活用したくても中々こちらから言える話でもない。県から、富士宮市に活用できるものがあるというような話があれば、博物館だけではなくほかの事業でも、高校の土地を利活用することもあるかもしれない。ただ、まだ先の話なので、博物館の建設場所として検討していくことや利用することはできない。
市民	話が先になる可能性があるのか。
教育部長	県は令和15年を目途にと発表している。令和10年以降に決まった時に、県が処分するか活用する。
市民	そこまで待てないという話か。
教育部長	博物館に関しては、待てない。今の段階ではきららという話になっている。

文化課長	基本計画101～102ページの公共施設の活用というところで、これから使用しない施設が出てくるかもしれないが、本館としての活用はしないという理由を載せている。統合されて使わなくなる学校がどこかは決まっていない。それを待っているよりも、収蔵物を守っていくことを急ぎたい。色々な理由が記載してあるので参考にご覧いただければと思う。 今回の基本計画がたたき台なのかという点については、昨年度から策定委員会の委員の方にご意見を聞いてここまで5回委員会を開いてまとめ上げてきた。これは素案で、100パーセントのものではない。説明会にあわせて行っているパブリック・コメントでご意見をいただき、検討する点があれば修正していく。 ふるさと納税の割合について、現時点で建設費を26億円とさせていただいているが、国の交付金などもあり、交付金の種類にもよるが、該当すれば建設費の半分は最大交付金で賄える。ふるさと応援基金や一般財源も入れながらという形になると思う。ふるさと応援金に関しては、国の交付金などを勘案して必要なものを扱っていく形になると思う。
市民	第1回の説明会の時、市民の方に交付金等はないと説明していたが。
教育部長	文化庁の交付金のことか。
市民	できるかできないか分からないことを安易に言わないことだ。30億の半分は交付金が出るのか。出なかったらどうするのか。
文化課長	金額は分からないが、制度が全く使えないわけではなく、いくらかの交付金はいただけると思う。
市民	中途半端にそういうものを当てにしていると言わずに、まだ分かりませんが努力しますよということにしておくべきだ。半分くらいなんて言わない方がいい。
文化課長	まだ分からないが、努力する。国の制度として半分という数字があることは確か。色々な条件が合えばの話だが、国の制度として半分とさせていただいたのでご承知ください。 区の集まり等はいつ頃あるか。
市民	区の集まりというと、博物館に関する集まりか。そうではなくて一般的な集まりか。
文化課長	区長さんが、先ほど報告していただけるとおっしゃっていたので。まだ説明会が他の会場でもあるので、声をかけていただけるか。
市民	博物館に関する集まり事はない。
文化課長	博物館ではなく、区の会合の時点で博物館の説明会がまだ開催している時期であれば、伝えていただけないかと思った。
市民	次は7月になる。ただそこは班長以上になるので、区の人を全部集めてということはない。25、6人くらいになる。
市民	区長会は1～4区ある。約1,000戸の中の班長が4人いて、4区は自治会ということになっている。うちは1日から次の土曜日までの間に、最初かその次の土曜日に、うちの2区は班長まで集めて、約40人集めて行く。1区もそれをやる。4区は分からない。他の区の区長にも説明しなければいけないということで、もし市の職員が説明に来ていただけるのなら、うちの2区の会合で説明したいと思う。区民に聞いてみる。
教育部長	ここの北山出張所ではもうやらないが、6月13日まで市民説明会をやっているので、例えばお近くだと大富士交流センター会場の説明会に参加できるということを、区民の方々に伝えていただけるとありがたい。
市民	分かった。